

## 2 病虫害発生予察

農業生産の安定と生産性の向上を図るとともに、高品質で安全・安心な農産物を生産するため、主要 16 作物に被害を与える 176 病虫害の発消長や農作物の生育状況等を調査した。これらの調査結果と病虫害の生態、気象の経過と予報等を基に、病虫害の発生時期や発生量を予察し、生産者を始め農業団体や市町村、関係機関等に情報を提供し、病虫害の的確な防除を推進した。

### (1) 対象作物及び有害動植物

区分	対象作物	国の指定有害動植物（注1）	県の有害動植物（注2）
普通作物	水 稲	いもち病、紋枯病、白葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、ごま葉枯病、縞葉枯病、稲こうじ病、ニカメイガ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシ、イネカメムシ、ミナミアオカメムシ）、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネミズゾウムシ	イチモンジセセリ（イネツトムシ）、スクミリンゴガイ
	麦	うどんこ病、赤かび病	黒穂病類（裸黒穂病、なまぐさ黒穂病）、黒節病 アブラムシ類（ムギヒゲナガアブラムシ、ムギクビレアブラムシ）、ムギダニ、シロトビムシ類
	小 麦	さび病類（赤さび病）	縞萎縮病
	大 麦	さび病類（黄さび病、小さび病、黒さび病）	縞萎縮病、斑葉病
	かんしょ	ナカジロシタバ、ハスモンヨトウ	つる割病、立枯病、基腐病 イモキバガ（イモコガ）、食葉性チョウ目幼虫

区分	対象作物	国の指定有害動植物（注1）	県の有害動植物（注2）
普通作物	大豆	紫斑病、アブラムシ類（ダイズアブラムシ）、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ、吸実性カメムシ類（アオクサカメムシ、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、ミナミアオカメムシ）、フタスジヒメハムシ	ウイルス病、立枯性病害、葉焼病、べと病、茎疫病 コガネムシ類（アカビロウドコガネ、アオドウガネ、ドウガネブイブイ、オオクロコガネ、ヒメコガネ、マメコガネ）、食葉性チョウ目幼虫、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ウコンノメイガ
果樹等作物	なし	黒斑病、黒星病、赤星病、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ミカンハダニ、ナミハダニ、リンゴハダニ）、カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）	うどんこ病、輪紋病 ニセナシサビダニ
	茶	炭疽病、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、チャノミドリヒメヨコバイ、ハダニ類（カンザワハダニ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、チャノホソガ、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ	もち病、輪斑病 カメムシ類（ツマグロアオカスミカメ）、ヨモギエダシヤク

区分	対象作物	国の指定有害動植物（注1）	県の有害動植物（注2）
野菜	トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、黄化葉巻病、うどんこ病、すすかび病、 アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ）オオタバコガ、 コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、 アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ	萎ちょう病類、青枯病、 ハモグリバエ類、
	なす	うどんこ病、灰色かび病、すすかび病、 アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、 アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ）、 ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）	褐紋病、褐色腐敗病、半身萎ちょう病、青枯病、 ハモグリバエ類、ホコリダニ類
	きゅうり	べと病、炭疽病、うどんこ病、斑点細菌病、灰色かび病、褐斑病 アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、 ハダニ類（ナミハダニ）、 アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ	モザイク病、菌核病、黄化えそ病、退緑黄化病、 ハモグリバエ類、食葉性チョウ目幼虫

区分	対象作物	国の指定有害動植物（注1）	県の有害動植物（注2）
野菜	ブロッコリー	コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ	黒腐病、べと病、軟腐病、花蕾腐敗病、黒斑細菌病、黒すす病、アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）、ハイマダラノメイガ
	ねぎ	さび病、黒斑病、べと病 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、アブラムシ類（ネギアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハモグリバエ類（ネギハモグリバエ）、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、ネギコガ	萎縮病、小菌核腐敗病、軟腐病、白絹病、葉枯病、黒腐菌核病
	さといも	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）、ハスモンヨトウ	汚斑病、疫病、ハダニ類（カンザワハダニ）
	ほうれんそう	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）、ハスモンヨトウ	べと病、立枯病、シロオビノメイガ、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、ケナガコナダニ、
	いちご	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、ハスモンヨトウ、アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、イチゴネアブラムシ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、オオタバコガ	萎黄病、輪斑病、ホコリダニ類、
小計	16 作物、104 病虫害	16 作物、72 病虫害	
合計	16 作物、176 病虫害		

(注1) 「国の指定有害動植物」とは、国が指定有害動植物発生予察事業計画で定めた発生予察事業の対象病虫害。

(注2) 「県の有害動植物」とは、埼玉県が国と協議して設定した発生予察事業の調査対象病虫害。

(2) 予察ほ場及び巡回調査地域等

ア 県予察ほ場

区 分	対象作物	箇所数	ほ 場 所 在 地
普通作物	水 稻	1	熊谷市玉井（農業技術研究センター玉井試験場）
	麦	1	熊谷市玉井（農業技術研究センター玉井試験場）
果樹特産	なし	1	久喜市六万部（農業技術研究センター久喜試験場）
	茶	1	入間市上谷ヶ貫（茶業研究所）
野 菜	トマト	1	熊谷市須賀広（農業技術研究センター）
	きゅうり	1	熊谷市須賀広（農業技術研究センター）
	いちご	1	熊谷市須賀広（農業技術研究センター）
計		7	

イ 予察灯設置ほ場

区 分	対象作物	箇所数	ほ 場 所 在 地
普通作物	水 稻	6	川越市南田島、川島町上八ツ林 本庄市児玉町吉田林、熊谷市玉井、加須市大越、春日部市樋籠
果樹特産	な し	3	上里町長浜、春日部市内牧、久喜市六万部
	茶	1	入間市上谷ヶ貫（茶業研究所）
計		10	

(注) ( ) 書きのある予察灯は、( ) 内の機関が調査している予察ほ場である。

ウ 巡回調査地域

区 分	対象作物	箇所数	ほ 場 所 在 地
普通作物	水 稻 (早植)	8	川越市小中居、毛呂山町箕和田、吉見町西吉見、熊谷市中曾根、加須市麦倉、春日部市樋籠、幸手市神扇、吉川市中井
	水 稻 (普通植)	6	坂戸市横沼、川島町曲師、嵐山町吉田、本庄市児玉町吉田林、美里町小茂田、加須市大越
	麦 (大麦)	3	川島町東部、加須市大越、白岡市太田新井
	麦 (小麦)	8	川越市古谷上、坂戸市片柳、川島町東部、本庄市児玉町吉田林、熊谷市飯塚、熊谷市樋春、行田市前谷、蓮田市駒崎
	かんしょ	2	川越市中台南、三芳町上富
	大 豆	6	川越市古谷上、滑川町福田、熊谷市板井、熊谷市樋春、加須市間口、蓮田市駒崎
果樹特産	な し	7	鴻巣市常光、神川町植竹、上里町長浜、加須市鴻莖、加須市上種足、春日部市内牧、白岡市下大崎
	茶	4	所沢市下富、狭山市南入曽、入間市根岸、日高市森戸新田
野 菜	トマト	7	川越市南田島、川島町上大屋敷、本庄市仁手、上里町勅使河原、深谷市普濟寺、加須市栄、越谷市東町
	な す	3	本庄市児玉町小平、熊谷市小江川、杉戸町大塚
	きゅうり	7	川越市大中居、川島町吉原、本庄市田中、熊谷市樋春、深谷市高畑、深谷市下手計、加須市大室
	ブロッコリー	3	本庄市田中、深谷市針ヶ谷、吉川市川藤
	ね ぎ	5	さいたま市岩槻区大野島、本庄市田中、熊谷市飯塚、深谷市下手計、越谷市中島
	さといも	3	川越市中福、所沢市下富、狭山市堀兼
	ほうれんそう	3	川越市中福、狭山市堀兼、深谷市上手計
	いちご	5	吉見町久保田新田、本庄市台町、加須市本郷、春日部市内牧、久喜市菖蒲町菖蒲
計	80		

(注) 水稻（早植）：5月中旬までの移植、水稻（普通植）：5月下旬以降の移植。

エ フェロモントラップ等調査

対象作物	対象害虫名	箇所数	設置場所
水 稲	ニカメイガ	3	吉見町西吉見、加須市麦倉、幸手市神扇
	フタオビコヤガ	2	熊谷市中曽根、加須市戸室
な し	ナシヒメシンクイ	5	飯能市双柳、鴻巣市常光、上里町長浜、加須市鴻荃、春日部市内牧
	果樹カメムシ類	1	寄居町鉢形
茶	チャハマキ	2	所沢市下富、入間市根岸
	チャノコカクモンハマキ	2	所沢市下富、入間市根岸
	チャノホソガ	2	所沢市下富、入間市根岸
野 菜	オオタバコガ	5	本庄市児玉町小平、深谷市針ヶ谷、加須市間口、越谷市中島、杉戸町大塚
	ハスモンヨトウ	3	熊谷市樋春、深谷市針ヶ谷、久喜市菖蒲町小林
	コナガ	1	深谷市新戒
	シロイチモジヨトウ	3	深谷市新戒、越谷市中島、杉戸町大塚
計		29	

### (3) 令和5年度の主な病害虫の発生とその防除対策

#### ア 主要病害虫の発生と防除対策の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	葉いもち	平年：やや遅 前年：やや早	平年：並 前年：多	平年よりやや遅い7月第2半旬に初発生を確認し、発生面積は7月に最大となった。発生量は平年並だった。	5～6月の多雨によりいもち病感染好適日が平年よりかなり多かったが、7月中旬以降は高温少雨が継続したため、多発には至らなかった。	抵抗性品種への転換が進みつつある。常発地では、育苗箱施用薬剤の利用が一般技術となっている。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	穂いもち	平年：並 前年：－	平年：並 前年：－	平年並の8月第4半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。発生量は平年並だった。	出穂期以降は高温少雨が継続したが、8月第3半旬～第5半旬に曇雨天が継続したため、平年並の発生となった。	感染好適日の発生状況を15日おきに発表し、必要に応じた葉いもちの防除を周知することにより、穂いもちの予防につなげた。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	紋枯病	平年：早 前年：早	平年：並 前年：やや少	平年より早い6月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。発生量は平年並だった。	作期中ずっと高温であったが、8月中旬及び9月上旬以外は少雨傾向だったため、多発には至らなかった	多窒素栽培を避けるなどの耕種的防除、薬剤による防除を組み合わせ実施している。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	種子更新と種子消毒の徹底について情報発信を実施した。JA米では種子更新が徹底されている。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	8月第2半旬に初発生を確認した。	本作型では過去10年発生が見られなかったが、出穂期以降の高温と8月第3半旬～第5半旬の曇雨天により、一部地域で発生が見られた。	種子更新と種子消毒の徹底について情報発信を実施した。また普及している箱施用薬剤の中には、本病に有効な薬剤がある。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	縞葉枯病	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年より早い6月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は7月に最大となった。発生量は平年並だった。	ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率は過去10年で最も低く、ヒメトビウンカの本田での発生量もやや少なかったが、本作型では感受性品種の作付け比率が高いため、平年並の発生となった。	保毒虫率及び麦ほ場の生息密度の調査結果を発表し、防除に取り組むよう呼びかけている。抵抗性品種への転換が進みつつある一方で、感受性品種ではウンカ類に対する育苗箱施用薬剤の使用を徹底している。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	7月が高温少雨であり、本病の感染に好適な気象条件とならなかった。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていない。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	※ごま葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	一部の限られたほ場でのみ散発程度の発生が確認された。	高温で肥切れが早く感染しやすい状況にあったが、長期の高温で病原菌の活動も抑制されたため、極めて限定的な発生にとどまった。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていない。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	※白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	過去10年発生が無く、伝染源が極めて少ないと考えられる。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていないが、普及している箱施用剤には細菌病に有効なものがある。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	ニカメイガ	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	平年より早い6月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。予察灯誘殺数が平年より多く、本田での発生量も多い結果となった。	この作型では秋耕いが定着しているため、水田内の越冬場所が減少しており、近年少発生傾向であったが、品種構成の変化（稈の太い品種の作付）などにより、世代を重ねることに増加した。特にチョウ目害虫対象の箱施薬を実施していない地域において、発生が増加した。	絶対量としてはそれほど多くなく、減収につながる被害とはなっていないため、他の害虫との同時防除に対応している。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	セジロウンカ	平年：早 前年：やや早	平年：やや少 前年：少	平年より早い6月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は7月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	本田の初発生は早かったが、予察灯への誘殺は平年より遅く、誘殺数もかなり少なかった。セジロウンカの飛来数が少なく、あまり本田に定着しなかったため、発生量が平年よりやや少なかったと推察される。	セジロウンカ・トビロウンカの飛来予測日数の動向を15日おきに発表し、注意喚起した。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	本田での発生は確認されなかったが、予察灯への誘殺は過去10年で最も多かった。	飛来予測日数は2日と少なかったが、実際の飛来日数はもっと多かったと推察される。しかし、1回当たりの飛来数が少なかったため、本田定着には至らなかったと考えられる。	セジロウンカ・トビロウンカの飛来予測日数の動向を15日おきに発表し、注意喚起した。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	ヒメトビウンカ	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：並	平年より早い5月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	5月に調査した麦ほ場での成幼虫密度は過去10年で2番目に高かったが、7月～9月の異常高温により発育が抑制され（発育上限29℃、発育停止40℃）、発生量はやや少となった。	保毒虫率及び麦ほ場の生息密度の調査結果を発表し、防除に取り組むよう呼びかけている。ウンカ類に対する育苗箱施用薬剤の使用を徹底している。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	ツマグロヨコバイ	平年：やや早 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	平年より早い6月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	予察灯誘殺数も平年より少なかった。原因は定かではないが、在来種のため、夏期の長期にわたる異常高温が影響した可能性は否めない。	ヒメトビウンカに対する育苗箱施用薬剤の使用徹底により、ヨコバイ類への防除も同時に行われている。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	斑点米カメムシ類	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年よりかなり早い5月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は6月に最大となった。発生量は平年並だった。しかし、県東部及び北東部の一部地域でイネカメムシが多発し、大きな被害を与えた。	7月中旬実施の畦畔及び雑草地における県内一斉調査では、過去10年で最も多かった。注意報を発表して防除圧が高まったことから、発生量は平年並にとどまった。	斑点米カメムシ類畦畔・雑草地発生調査及び注意報を発表し、防除を呼び掛けた。



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	イチモンジセセリ	平年：一 前年：並	平年：やや少 前年：一	6月第6半旬に初発生を確認したが、散発程度で、その後発生は見られなかった。	夏期の長期にわたる異常高温により発生が抑制され(本虫は30℃以上で若齢幼虫の生育遅延や老齢幼虫の死滅が報告されている)、発生量はやや少にとどまった。	生育予測システムを活用して第2世代幼虫孵化最盛期を発表し、適期防除を呼びかけた。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	フタオビコヤガ	平年：早 前年：一	平年：並 前年：一	平年より早い5月第6半旬に初発生を確認したが、その後発生は見られなかった。	フェロモントラップの誘殺数は年々減少傾向にあり、ほ場での発生も減少しているため、少発生が平年並となる。	生育予測システムを活用して第2世代成虫最盛期を発表し、適期防除を呼びかけた。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	コブノメイガ	平年：一 前年：一	平年：並 前年：一	発生は確認されなかった。	過去10年発生が無いため、無発生が平年並となる。	減収につながる被害とはなっていないため他の害虫との同時防除で対応している。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	イネミズウムシ	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い5月第4半旬に初発生を確認し、発生面積は7月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	本虫の多発地は4月下旬移植地域が主体で、通常は移植後すぐに発生が確認されるが、1月～4月が高温に経過したため、越冬世代成虫の活動開始時期が水稲移植前に早まり、本田での確認が第1世代成虫になった可能性が考えられる。発生量は、年々減少している。	越冬場所(森林、堤防沿い)に近接する常発地帯では、育苗箱施用薬剤の使用が基本技術となっている。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	スクミリンゴガイ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	本作型では、地域による被害の多少の差が大きかったが、発生量は平年より少なく、前年並かやや多かった。	本県では、冬季の低温が本種の越冬を阻害するため、常発地は限られている。前年の発生量が少なかったこと、常発地での防除が徹底されてきたことから、越冬個体数が減少傾向にある。	耕種防除が中心であるが、常発地帯では薬剤防除も実施されている。薬剤防除に助成する地域防除協議会もある。
水稲 (早植) 5月中旬までの移植	※イネドロオウムシ	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	一部ほ場で散発程度の発生が確認された。	本虫は寒冷地型であり、本県では4月下旬移植の一部地域でわずかに発生が見られる程度である。	常発地域が非常に限定的であり、当該地域では育苗箱施用薬剤の使用が基本技術となっている。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	葉いもち	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い8月第1半旬に初発生を確認し、発生面積は8月が最大となった。発生量は、平年よりやや少なかった。	6月の降水量は多かったが、7月が極端な高温少雨だったため初発が遅れ、気象条件がやや緩んだ8月になってから一部で日照りもちが発生した。7月7日以降県内で感染好適日は出現していないため、発生量も抑制された。	ほぼ抵抗性品種となっているが、一部に常発地がある。常発地では、育苗箱施用薬剤の利用が一般技術となっている。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	穂いもち	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年より早い8月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は9月が最大となった。発生量は、平年並だった。	葉いもちの発生量はやや少なかったが、9月上旬の降水量が多かったため、平年並の発生となった。	感染好適日の発生状況を15日おきに発表し、必要に応じた葉いもちの防除を周知することにより、穂いもちの予防につなげた。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	紋枯病	平年：遅 前年：早	平年：並 前年：並	平年より遅い8月第1半旬に初発生を確認し、発生面積は9月が最大となった。発生量は、平年並だった。	8月～9月の気温は高かったが、菌の生育適温を超える時間帯が長く、降水量は平年並かやや少なかったため、多発には至らなかった。	多窒素栽培を避けるなどの耕種防除、薬剤による防除を組み合わせ実施している。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	ばか苗病	平年：遅 前年：一	平年：多 前年：一	一部地域で散発程度の発生が確認された。	平年の発生量が非常に少ないため、一部で散発程度の発生であっても、平年比は多となる。	温湯消毒の実施と育苗処理剤の励行を実施。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	もみ枯細菌病	平年：早 前年：一	平年：多 前年：一	平年より早い8月第4半旬に初発生を確認し、発生面積は9月が最大となった。発生量は平年より多かった。	8月中旬の降水量が多く、その時期に出穂した作期・品種で散発～少程度の発生が見られた。平年の発生量が少ないため、少発生でも平年比は多となる。	種子更新と種子消毒の徹底について情報発信を実施した。また普及している箱施用薬剤の中には、本病に有効な薬剤がある。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	縞葉枯病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：並	平年より遅い8月第2半旬に初発生を確認し、発生面積は8月が最大となった。発生量は、平年よりやや少なかった。	本作型では、近年感受性品種から抵抗性品種への転換が急速に進んでいる。また、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率は過去10年で最も低く、ヒメトビウンカの本田での発生量もやや少なかったため、本病の発生もやや少となった。	ほぼ抵抗性品種となっている。保毒虫率及びまほ場の生息密度の調査結果を発表し、感受性品種を作付けている場合は防除に取り組むよう呼びかけている。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	稲こうじ病	平年：一 前年：一	平年：やや少 前年：一	発生は確認されなかった。	7月中旬～8月上旬が高温少雨であり、本病の感染に好適な気象条件ではなかった。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていない。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	※ごま葉枯病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：一	発生は確認されなかった。	過去10年で1年のみ散発程度の発生だったため、無発生が平年並となる。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていない。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	※白葉枯病	平年：一 前年：一	平年：並 前年：一	発生は確認されなかった。	過去10年で1年のみ散発程度の発生だったため、無発生が平年並となる。	本病を対象とした防除はほとんど実施されていないが、普及している箱施用剤には細菌病に有効なものがある。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	ニカメイガ	平年：早 前年：早	平年：並 前年：少	平年より早い7月第3半旬に初発生を確認したものの、発生は散発にとどまった。本年は予察灯誘殺数が平年より多かったが、本田での発生量は平年並であった。	本作型では米麦二毛作が多く、米収穫後すぐに耕耘するため、平年の発生量が非常に少ない。散発1か所で平年並の発生となる。	絶対量としてはそれほど多くなく、減収につながる被害とはなっていないため、他の害虫との同時防除で対応している。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	セジロウンカ	平年：早 前年：早	平年：並 前年：やや少	平年より早い7月第2半旬に初発生を確認し、発生面積は8月が最大となった。発生量は、平年並だった。	本田の初発生は早かったが、予察灯への誘殺は平年より遅く、誘殺数もかなり少なかった。飛来予測日数も少なかったが、南方系のため、7月以降の異常高温で定着促進され、平年並の発生量となったと推察される。	セジロウンカ・トビロウンカの飛来予測日数の動向を15日おきに発表し、注意喚起した。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	本田での発生は確認されなかったが、予察灯への誘殺は過去10年で最も多かった。	飛来予測日数は2日と少なかったが、実際の飛来日数はもっと多かったと推察される。しかし、1回当たりの飛来数が少なかったため、本田定着には至らなかったと考えられる。	セジロウンカ・トビロウンカの飛来予測日数の動向を15日おきに発表し、注意喚起した。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	ヒメトビウンカ	平年：遅 前年：やや早	平年：やや少 前年：並	平年より遅い6月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は8月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	5月に調査した麦ほ場での成幼虫密度は過去10年で2番目に高かったが、7月～9月の異常高温により発育が抑制され(発育上限29℃、発育停止40℃)、発生量はやや少なかった。	保毒虫率及び麦ほ場の生息密度の調査結果を発表し、防除に取り組むよう呼びかけている。ウンカ類に対する育苗箱施用薬剤の使用を徹底している。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	ツマグロヨコバイ	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：並	平年より遅い6月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は9月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	予察灯誘殺数も平年より少なかった。原因は定かではないが、在来種のため、夏期の長期にわたる異常高温が影響した可能性は否めない。	ヒメトビウンカに対する育苗箱施用薬剤の使用徹底により、ヨコバイ類への防除も同時に行われている。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	斑点米カメムシ類	平年：並 前年：やや早	平年：多 前年：並	平年並の6月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は7月に最大となったが、9月まで同程度の発生面積が継続した。発生量は平年より多かった。	7月中旬実施の畦畔及び雑草地における県内一斉調査では、過去10年で最も多かった。7月下旬に注意報を発表したが、本作型の防除時期より1か月早かったため防除圧が高まらなかった。また、7月、9月の高温少雨で発生が助長された。	斑点米カメムシ類畦畔・雑草地発生調査及び防除情報を発表し、注意喚起した。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	イチモンジセセリ	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い8月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は9月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	夏期の長期にわたる異常高温により発生が抑制され(本虫は30℃以上で若齢幼虫の生育遅延や老齢幼虫の死滅が報告されている)、発生量はやや少にとどまった。	生育予測システムを活用して第2世代幼虫孵化最盛期を発表し、適期防除を呼びかけた。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	フタオビコヤガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	弱齢幼虫は高温・乾燥に弱いため、7月中旬～8月上旬の高温少雨により発生が抑制された。	生育予測システムを活用して第2世代成虫最盛期を発表し、適期防除を呼びかけた。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	減収につながる被害とはなっていないため他の害虫との同時防除で対応している。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	イネミズゾウムシ	平年：－ 前年：並	平年：やや少 前年：－	5月第6半旬に一部地域で散発程度の発生を確認したが、その後の発生は見られなかった。	従来からこの作型ではあまり発生が見られない。	この作型ではあまり発生が見られないため、特に防除はしていない。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	スクミリンゴガイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生量は平年並だったが、一部に壊滅的被害を受けたほ場が見られた。	本県では、冬季の低温が本種の越冬を阻害するため、常発地帯は限られている。1月～4月が高温傾向で経過したため、前年発生が多かった地域の越冬個体数が多かったと推察される。前年被害が多かった地域で、本年休耕したほ場の近接ほ場で、ほとんど欠株となったほ場が数筆見られた。近接ほ場でもほとんど被害がなかったほ場もあるので、防除対策を怠ったほ場が集中的に加害されたものと思われる。	耕種防除が中心であるが、常発地帯では薬剤防除も実施されている。薬剤防除に助成する地域防除協議会もある。
水稲 (普通植) 5月下旬以降の移植	※イネドロオウムシ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	過去10年で1年のみ散発程度の発生だったため、無発生が平年並となる。	特に防除はしていないが、普及している箱施用剤には、コウチュウ目に有効なものもある。
麦	黒さび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
麦	赤さび病	平年：遅 前年：遅	平年：並 前年：多	平年より遅い4月第6半旬に初発を確認し、発生面積は5月が最大となった。発生量は平年並だった。	2～3月の高温によりムギが軟弱に生育し、同時期の降水量も多かったものの、昨年の発生量が少なかったため、菌密度が低く、発生は一部のほ場にとどまった。	赤かび病との同時防除可能な薬剤の選択。
麦	黄さび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
麦	小さび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
麦	うどんこ病	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：並	平年より遅い4月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は5月に最大となった。発生量は平年より多かった。	昨年の発生量が多かったため、菌密度が高く、3月の高温多雨でムギが軟弱に生育したことにより発生が助長された。	赤かび病の防除で同時防除されている。
麦	赤かび病	平年：やや早 前年：早	平年：並 前年：少	平年よりやや早い5月第3半旬に初発生を確認し、発生量は平年並であった。	4月15日以降の赤かび病子のう胞子飛散好適日の出現日数は平年よりやや多かったが、大小麦とも出穂が早く、4月第3半旬までに開花したため、抵抗性の弱い品種のみの発生となった。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
麦	黒穂病類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	種子更新、種子消毒を実施している。
麦	黒節病	平年：やや遅 前年：遅	平年：やや少 前年：多	平年よりやや遅い3月第3半旬に初発生を確認し、発生面積は5月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	種子消毒の不徹底により、一部地域にて発生した。	種子更新、種子消毒を実施している。
麦	オオムギ縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	近年、抵抗性品種や「彩の星」の導入より発生が極少となっている。
麦	コムギ縞萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	近年、抵抗性品種「さとのそら」の導入より発生が極少となっている。
麦	オオムギ斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
麦	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：少	平年より早い11月第6半旬に初発生を確認し、冬期は発生がおさまったものの、4月から再発生し、発生面積は5月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	暖冬傾向であったため、初発は平年より早まったものの、再発生時期である3月中下旬にまとまった降雨があったため、発生が抑制された。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。
麦	ムギダニ	平年：遅 前年：－	平年：やや少 前年：－	平年より遅い4月第3半旬に、初発生を確認した。発生量は平年よりやや少なかった。	第1世代虫が発生する2月上旬及び第2世代虫が発生する3月中下旬にまとまった降雨があったため、一部地域で散発程度の発生にとどまった。	本害虫による被害は稀なため防除対策は実施していない。
麦	シロトビムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
かんしょ	つる割病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	苗の消毒、土壌消毒を実施している。
かんしょ	立枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	苗の消毒、土壌消毒を実施している。
かんしょ	イモキバガ (イモコガ)	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	9月第3半旬に初発が確認されたが、防除により、ほとんど被害は出なかった。	6～10月の高温で発生が促進された。	ハスモンヨトウを対象とした防除により同時防除されている。
かんしょ	ナカジロシタバ	平年：早 前年：－	平年：多 前年：－	6月第6半旬に初発が確認された。その後も継続して発生が見られたため、平年よりも発生量は多かった。防除により被害は拡大しなかった。	6～10月の高温で発生が促進された。	ハスモンヨトウを対象とした防除により同時防除されている。
かんしょ	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：早	平年：並 前年：－	6月第6半旬に初発が確認されたが、防除により、ほとんど被害は出なかった。	6～10月の高温で発生が促進された。	薬剤防除を実施している。
かんしょ	食葉性チョウ目幼虫	平年：遅 前年：遅	平年：－ 前年：少	10月第1半旬に初発が確認された。その後食害は増えたが、収穫間際だったため収量に影響は無かった。	6～10月の高温で発生が促進された。	ハスモンヨトウを対象とした防除により同時防除されている。
大豆	紫斑病	平年：遅 前年：－	平年：－ 前年：－	収穫期の子実調査で、一部地域で散発程度の発生が確認された。	本県の奨励品種である「里のほほえみ」は本病への強い抵抗性を持つため、偶発的に発生したものと考えられる。	奨励品種が紫斑病に強い「里のほほえみ」に切り替わった。種子消毒、無人ヘリによる一斉防除を実施している。
大豆	立枯性病害	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	一部地域で散発程度の発生が確認された。	種子消毒の不徹底により、一部地域にて発生した。	種子消毒を実施している。
大豆	べと病	平年：やや早 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年よりやや早い8月第4半旬に初発生を確認し、発生面積は10月に最大となった。発生量は平年よりやや多かった。	主力品種が感受性の「里のほほえみ」や在来品種のため、発生が増加傾向にある。7月中下旬の少雨により、播種・生育が順調に進み、感染しやすい生育ステージで8月中旬の降雨を受けたため、発生時期は平年よりやや早くなった。9月上旬は台風接近等の影響で、曇雨天が継続したため、発生が助長された。	種子更新、ほ場内の残さ処理による耕種的防除を実施している。
大豆	葉焼病	平年：早 前年：早	平年：並 前年：少	平年より早い8月第6半旬に初発生を確認し、発生面積は10月に最大となった。発生量は平年並であった。	8月中旬と9月上旬の降雨日が多く、高温傾向が続いたため、発生が助長された。	種子更新、ほ場内の残さ処理による耕種的防除を実施している。
大豆	ウイルス病	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：並	収穫期の子実調査で、一部地域で褐斑粒の発生が確認された。生育期のモザイク葉は確認されなかった。	8月上旬は高温少雨傾向で経過したためアブラムシ類の発生が助長されたが、8月中旬と9月上旬のまとまった降雨によって発生が抑制された。しかし、本ウイルスに感染していた株が一部存在したものと考えられる。発生の絶対量としては多くないものの、発生が過去10年間で昨年のみであったため、発生量は平年より多くなった。	－
大豆	萎疫病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
大豆	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：－	平年より早い8月第1半旬に、一部地域で発生を確認したが、その後の発生は見られなかった。	8月上旬は高温少雨傾向で経過したためアブラムシ類の発生が助長されたが、8月中旬と9月上旬のまとまった降雨によって、発生が抑制されたため、極少発生にとどまった。	は種時の薬剤処理と適期防除を実施している。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
大豆	コガネムシ類	平年：並 前年：早	平年：少 前年：少	平年より早い8月第1半旬に、一部地域で発生を確認したが、その後の発生は見られなかった。	発生量が少なかった原因は定かではないが、在来種のため夏期の長期にわたる異常高温が影響した可能性は否めない。	本害虫による被害は稀なため防除対策は実施していない。
大豆	ハスモンヨトウ	平年：早 前年：やや早	平年：やや少 前年：やや少	平年より早い8月第1半旬に初発生を確認し、発生面積は9月に最大となった。発生量は平年よりやや少なかった。	フェロモントラップでの誘殺数が近年減少傾向にあり、ほ場でもオオタバコガ、シロイチモジヨトウが優占し、本種は減少している。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。
大豆	食葉性チョウ目幼虫	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：並	本年は平年より早い7月第4半旬から発生が確認され、発生面積は10月に最大となった。発生量は平年よりやや多かった。	6月～9月の高温少雨傾向により、オオタバコガ、シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数が平年より大幅に増加し、ほ場での発生も助長された。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。オオタバコガは注意報を発表し、防除を呼びかけた。
大豆	ダイズサヤタマバエ	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：少	収穫期の子実調査で、一部地域で散発程度の発生が確認された。	9月上旬の降雨によって発生が抑制された可能性がある。また、在来種のため夏期の長期にわたる異常高温が影響した可能性は否めない。	本害虫による被害は稀なため防除対策は実施していない。
大豆	マメシクイガ	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年より早い9月第3半旬に、一部地域で被害葉が確認された。発生量は平年よりもやや多かった。	大規模粗放栽培のほとんど防除を行っていない調査地点において、ほ場調査で成虫が確認できるほどの発生だったため、子実調査では甚発生となり、平年よりやや多い発生となった。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。
大豆	シロイチモジマダラメイガ	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年より早い8月第6半旬に、一部地域で被害葉が確認された。発生量は平年並であった。	初発生以降被害の進展は見られず、被害葉が認められた調査地点の子実調査でも少発生にとどまった。被害葉が確認できなかった調査地点でも、子実調査では散発程度の発生が認められたため、全体としては平年並の発生となった。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。
大豆	吸実性カメムシ類	平年：早 前年：早	平年：多 前年：並	平年より早い8月第4半旬に初発生を確認し、9月中旬以降にミナミアオカメムシが優占してから発生面積が拡大した。発生量は平年より多かった。	近年、他種の寄生が減少する9月中旬から収穫期近くまで寄生するミナミアオカメムシが急速に増加しており、9月～11月上旬まで高温に経過したため、子実被害が助長された。	主産地では無人ヘリによる一斉防除が実施された。空中散布による防除が地域に定着している。
大豆	フタスジヒメハムシ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	播種時期の遅れ等により、本種第1世代虫の発生時期とダイズの生育ステージがずれている可能性が考えられる。	本種を対象とした防除は行われていないが、他の害虫と同時防除されている。
大豆	ウコンノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生が確認されなかった。	－	－
なし	黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生が確認されなかった。	－	－
なし	黒星病	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：並	平年より早い4月第4半旬に初発を確認したが、8月以降は発生が確認されなかったため、発生量は平年よりやや少なかった。	前年の秋の発生量が少なかったため、春の発生量が少なくなり、高温で推移したため発生が抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	赤星病	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年より早い4月第4半旬に初発を確認した。その後平年並で推移したが、前年より発生量は多かった。	3月に高温少雨となったため発生が早まり、5月以降も高温多雨が続いたため前年より発生が多かった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	うどんこ病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：やや多	平年より早い8月第1半旬に初発を確認した。発生量は平年よりやや多かった。	8月は収穫最盛期にあたるため、適期防除が難しく発生量が増加した。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	輪紋病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
なし	シクイムシ類	平年：遅 前年：遅	平年：並 前年：少	平年より遅い9月第3半旬に初発を確認したが、その後は発生が確認されなかった。	全体的に防除対策が行われており、発生は一部にとどまった。	フェロモントラップデータを県のウェブサイトに掲載し、注意喚起と適期防除を呼びかけた。
なし	ハマキムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
なし	ハダニ類	平年：早 前年：並	平年：やや多 前年：並	平年より早い5月第1半旬に初発を確認した。その後発生量は平年よりやや多く推移した。	6月から9月にかけての高温により発生が助長され、平年よりやや多くなった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	カイガラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	平年並みの9月第3半旬に初発を確認した。その後発生量は平年よりやや少なくなりました。	全体的に防除対策が行われており、発生は一部にとどまった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：並 前年：やや多	平年より早い3月第3半旬に初発を確認した。その後平年並みで推移した。	3月の高温により平年よりも早く発生が見られた。その後防除対策が取られ平年並の発生に落ち着いた。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
なし	ニセナシサビダニ	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	平年より早い5月第1半旬に初発を確認した。その後徐々に発生が増え、平年より多い発生量となった。	3月・4月の高温が発生を早め、6月以降高温で発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
なし	果樹カメムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	果実被害の発生が確認されなかった。フェロモントラップ等による調査では7月から8月の発生が多いが、8月から9月の発生が多かった。	7月から8月にかけての顕著な高温はかえって発生を抑制した。また、カメムシの種類により発生消長が異なった。	フェロモントラップデータを県のウェブサイトに掲載し、注意喚起と適期防除を呼びかけた。
茶	炭そ病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	二番茶摘採以降、7月第3半句から8月第4半句にかけて発生が見られた。ほ場ごとの発生量は少なく、発生地域も限定的であったため、平年に比べやや少なかった。	8月第6半句から9月第1半句の少雨の影響により発生は落ち着いた。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	もち病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	越冬菌密度が低く、適切に防除されているためと思われる。	－
茶	輪斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	－
茶	チャノココクモンハマキ	平年：早 前年：並	平年：やや少 前年：少	フェロモントラップでの調査では、越冬世代成虫、第1世代成虫の発生は平年よりも早かった。発生量は7月中旬以降減少し第2世代成虫は大きく下回った。幼虫は、期間を通じて茶園での発生はほとんど見られなかった。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	フェロモントラップデータを県のウェブサイトに掲載し、注意喚起と適期防除を呼びかけた。
茶	チャハマキ	平年：早 前年：並	平年：並 前年：やや少	フェロモントラップでの調査では、越冬世代成虫、第1世代成虫の発生は平年よりも早かった。発生量は7月中旬以降減少し第2世代成虫は大きく下回った。幼虫は、茶園での発生は平年よりも早かった。8月第1半句以降は発生量は減少したが、一部の園では10月第6半句以降の発生量が増えた。	夏期の高温の影響や、一番茶・二番茶の摘採、その後の整枝作業により物理的に除去され個体数が減ったことによると思われる。	フェロモントラップデータを県のウェブサイトに掲載し、注意喚起と適期防除を呼びかけた。
茶	チャノホソガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	フェロモントラップでの調査では、越冬世代成虫は平年よりも早かった。発生量は7月中旬以降減少し、第3世代成虫の発生はほとんど見られなかった。幼虫は、期間を通じて茶園での発生はなかった。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	フェロモントラップデータを県のウェブサイトに掲載し、注意喚起と適期防除を呼びかけた。
茶	チャノミドリヒメヨコバイ	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：少	期間を通じて発生はあまり見られなかった。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	カンザワハダニ	平年：早 前年：早	平年：並 前年：並	2月第1半句から発生は見られたが、二番茶摘採後は発生は見られなくなった。	一番茶や二番茶の摘採、一番茶摘採後の深刈りにより、物理的に除去されたほか、適切な防除により発生は抑えられた。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	チャノキイロアザミウマ	平年：早 前年：遅	平年：並 前年：少	9月第1半句から発生が見られる園が増え、10月第1半句には発生量が多い園も見られたが、その後発生量は落ち着いた。	3月の高温により平年よりも早く発生が見られたが、適切な防除により発生は抑えられた。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	ツマグロアオカシミカメ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	発生が確認されなかった。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	クワシロカイガラムシ	平年：やや早 前年：並	平年：やや少 前年：少	有効積算温度によるふ化予測では、第1世代幼虫のふ化最盛期は5月11日（平年より15日早い）、第2世代は7月16日（平年より8日早い）、第3世代は9月16日（平年より3日遅い）となった。	冬季に散布する防除薬剤の普及により発生量は減少している。	発生予察情報等の防除指導により、適期防除を実施した。
茶	ヨモギエダシヤク	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	本県での発生は少なく、適切に防除されていると思われる。	－
茶	チャトゲコナジラミ	平年：やや早 前年：早	平年：並 前年：並	裾葉に定着していたが、発生はごくわずかである。	適切な防除が行われているため発生が抑えられている。	－
冬春トマト (長期一作)	疫病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：多	平年並の1月第4半句に初発を確認し、その後も発生が継続したが少なかったため、発生量は平年よりやや少なかった。	2月は平年より日照時間が多く、2～4月が高温だったことから、ハウス内湿度が上がりにくくなり発生が抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。また、施設内の湿度管理対策として循環扇の導入が図られている。
冬春トマト (長期一作)	葉かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	抵抗性品種の普及により発生は抑制されている。	抵抗性品種の導入とあわせ薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。また、施設内の湿度管理対策として循環扇の導入が図られている。
冬春トマト (長期一作)	青枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	抵抗性台木が利用されている。また、土壌消毒が実施されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春トマト (長期一作)	黄化葉巻病	平年：早 前年：並	平年：やや少 前年：少	平年より早い11月第1半旬に初発を確認し、その後も発生が継続したが、発生量は平年よりやや少なくなった。	一部のほ場でウイルス媒介虫の侵入防止対策が不十分であったため、発生が増加した。	ウイルス媒介虫の侵入防止対策や発生株の除去などの総合防除が行われている。一部のほ場で耐病性品種が導入されている。
冬春トマト (長期一作)	うどんこ病	平年：遅 前年：遅	平年：やや多 前年：多	平年より遅い12月第6半旬に初発を確認し、4月中旬以降に発生量が増加したため、発生量は平年よりやや多くなった。	平年より4～5月の日射量が多く、ハウス内湿度が低下したため、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
冬春トマト (長期一作)	萎ちよう病類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	抵抗性品種が導入されている。	土壌病害に共通した土壌消毒等の対策がとられている。
冬春トマト (長期一作)	黄化えそ病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	すすかび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	アザミウマ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	コナジラミ類	平年：早 前年：並	平年：やや多 前年：多	平年より遅い10月第4半旬に初発を確認し、1月以降発生が増加し継続したため、発生量は平年よりやや多くなった。	一部のほ場で侵入防止対策が不十分であった。また、2～4月の高温により、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した定期的な薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
冬春トマト (長期一作)	ハモグリバエ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	トマトサビダニ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春トマト (長期一作)	オオタバコガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	うどんこ病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：少	平年より早い5月第4半旬に初発を確認し、7月中旬以降に発生量が増加したため、発生量は平年よりやや多くなった。	7～9月の高温少雨により、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋なす	灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	すすかび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	褐紋病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：多	平年より早い5月第4半旬に初発を確認し、その後発生量が増加したため、発生量は平年よりやや多くなった。	5～6月の多雨により、発生が助長された。	－
夏秋なす	褐色腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	半身萎ちよう病	平年：早 前年：早	平年：多 前年：やや少	平年より早い5月第6半旬に初発を確認し、一部のほ場で発生が多くなった。その後も発生が継続したため、発生量は平年より多くなった。	一部のほ場で連作により発生が増加した。	抵抗性台木が利用されている。
夏秋なす	青枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	抵抗性台木が利用されている。
夏秋なす	半枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	アザミウマ類	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：やや多	平年より早い5月第1半旬に初発を確認。6月に発生量が急増し、その後も発生が継続したため、発生量は平年より多くなった。	6～10月の高温により、発生が助長された。	天敵への影響や薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋なす	オオタバコガ	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	平年より早い5月第4半旬に初発を確認し、その後8月に発生量が急増したため、発生量は平年より多くなった。	7～9月の高温少雨により、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋なす	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：遅	平年：並 前年：－	前年より遅い10月第1半旬に初発を確認したが、その後発生は確認されず、発生量は平年並となった。	全体的には防除対策が十分行われており、発生は収穫期後半に防除圧が低下した一部のほ場にとどまった。	－
夏秋なす	ハモグリバエ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
夏秋なす	アブラムシ類	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：多	平年より早い5月第1半旬に初発を確認し、その後発生量が急増したため、発生量は平年より多くなった。	4月の高温により発生時期が早まった。また、6月以降も顕著な高温が継続したため、発生量が多くなった。	－

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋なす	ハダニ類	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：並	平年より早い5月第1半旬に初発を確認し、その後も発生量の多い状態が継続したため、発生量は平年より多くなった。	4月の高温により発生時期が早まった。また、6月以降も顕著な高温が継続したため、発生量が多くなった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋なす	ホコリダニ類	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い10月第1半旬に初発を確認したが、その後発生量の少ない状態が継続したため、発生量は平年よりやや少なくなった。	全体的には防除対策が十分行われており、発生は収穫期後半に防除圧が低下した一部のほ場にとどまった。	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	べと病	平年：遅 前年：遅	平年：少 前年：少	平年より遅い10月第1半旬に初発を確認したが、その後発生量の少ない状態が継続したため、発生量は平年より少なくなった。	10～11月は平年より日照時間が長く、高温であったため、ハウス内湿度が上がりにくくなり発生が抑制された。	抵抗性品種の導入と、薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	炭疽病	平年：— 前年：—	平年：— 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	うどんこ病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い10月第1半旬に初発を確認したが、発生量の多いほ場は一部であったため、発生量は平年よりやや少なくなった。	全体的には防除対策が十分行われており、発生は収穫期後半に防除圧が低下した一部のほ場にとどまった。	抵抗性品種の導入と、薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	斑点細菌病	平年：— 前年：—	平年：— 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	モザイク病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	灰色かび病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	褐斑病	平年：遅 前年：早	平年：やや少 前年：少	平年より遅い9月第5半旬に初発を確認したが、発生量の多いほ場は一部であったため、発生量は平年よりやや少なくなった。	9～11月は平年より日射量が多く、高温であったため、ハウス内湿度が上がりにくくなり発生が抑制された。	抵抗性品種の導入と、薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	菌核病	平年：— 前年：—	平年：並 前年：—	発生は確認されなかった。	—	作付前の太陽熱消毒等により伝染源である菌核の死滅が図られている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	黄化えそ病	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：多	平年より早い9月第3半旬に初発を確認し、その後発生量の多い状態が継続したため、発生量は平年より多くなった。	9～11月の高温によりウイルス媒介虫が増加し、発生が助長された。	ウイルス媒介虫の侵入防止対策や発生株の除去などの総合防除が行われている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	退緑黄化病	平年：遅 前年：並	平年：並 前年：並	平年より遅い10月第1半旬に初発を確認し、その後発生量が急増したが、発生量の多いほ場は一部であったため、発生量は平年並となった。	8～11月の高温によりウイルス媒介虫が増加し、一度感染株が発生したハウス内では継続的に感染が継続したものの、防除圧の高いハウスでは発生しなかった。	ウイルス媒介虫の侵入防止対策や発生株の除去などの総合防除が行われている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	アザミウマ類	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：多	平年より早い9月第3半旬に初発を確認し、その後発生量の多い状態が継続したため、発生量は平年より多くなった。	9～11月の高温により、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した定期的な薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	コナジラミ類	平年：遅 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年より遅い8月第3半旬に初発を確認し、その後発生量の多い状態が継続したため、発生量は平年よりやや多くなった。	8～11月の高温により、発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した定期的な薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	ハモグリバエ類	平年：早 前年：並	平年：並 前年：少	平年より早い9月第3半旬に初発を確認したが、発生量の多いほ場は一部であったため、発生量は平年並となった。	9～11月の高温により発生が助長されたが、発生は一部ハウスに留まった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	ハダニ類	平年：— 前年：遅	平年：並 前年：—	前年より遅い11月第1半旬に初発を確認したが、その後発生が確認されなかったため、発生量は平年並となった。	一部ハウスで発生が確認されたが、発生確認後に防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
夏秋きゅうり (抑制栽培)	アブラムシ類	平年：— 前年：—	平年：やや少 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	ハスモンヨトウ	平年：— 前年：早	平年：並 前年：—	前年より早い10月第1半旬に初発を確認したが、その後発生が確認されなかったため、発生量は平年並となった。	一部ハウスで発生が確認されたが、発生確認後に防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	—
夏秋きゅうり (抑制栽培)	食葉性チョウ目幼虫	平年：遅 前年：遅	平年：— 前年：—	平年より遅い9月第3半旬に初発を確認したが、発生量の多いほ場は一部であった。	9～11月の高温により発生が助長されたが、発生は一部ハウスに留まった。	—
冬春きゅうり (促成栽培)	べと病	平年：遅 前年：早	平年：やや少 前年：多	平年より遅い2月第4半旬に初発を確認したが、その後発生量の少ない状態が継続したため、発生量は平年よりやや少なくなった。	2～5月は3月を除いて平年より日射量が多く、高温であったため、ハウス内湿度が上がりにくくなり発生量の少ない状態が継続した。	抵抗性品種の導入と、施設内の湿度管理対策として循環扇の導入が図られている。また、薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
冬春きゅうり (促成栽培)	炭疽病	平年：— 前年：—	平年：— 前年：—	発生は確認されなかった。	—	—

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春きゅうり (促成栽培)	うどんこ病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年より早い1月第4半旬に初発を確認したが、発生が多い場合は一部であったため、発生量は平年よりやや多い程度となった。	一部定植時期の早いハウスで成り疲れして発生したものの、適正な湿度管理や適期防除が行われ、発生が抑制された。	抵抗性品種の導入と、薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
冬春きゅうり (促成栽培)	斑点細菌病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春きゅうり (促成栽培)	モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春きゅうり (促成栽培)	灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	2月第4半旬に初発を確認したが、発生が確認された場合は一部であったため、発生量は平年よりやや少なくなった。	一部ハウスで発生が確認されたが、発生確認後に防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
冬春きゅうり (促成栽培)	褐斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	抵抗性品種が導入されている。
冬春きゅうり (促成栽培)	菌核病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	作付後の太陽熱利用等による土壌消毒を行っている。
冬春きゅうり (促成栽培)	黄化えそ病	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：少	平年より早い1月第4半旬に初発を確認したが、発生が確認された場合は一部であったため、発生量は平年よりやや少なくなった。	一部ハウスで発生が確認されたが、発生確認後に感染株の抜き取りが行われ、発生は一時的なものとなった。	ウイルス媒介虫の侵入防止対策や発生株の除去などの総合防除が行われている。
冬春きゅうり (促成栽培)	退緑黄化病	平年：早 前年：早	平年：並 前年：並	平年より早い3月第1半旬に初発を確認したが、発生が確認された場合は一部であったため、発生量は平年並となった。	3月の高温によりウイルス媒介虫が増加し、一度感染株が発生したハウス内では継続的に感染が継続したものの、防除圧の高いハウスでは発生しなかった。	ウイルス媒介虫の侵入防止対策や発生株の除去などの総合防除が行われている。
冬春きゅうり (促成栽培)	アザミウマ類	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：多	平年より遅い4月第4半旬に初発を確認したが、その後発生量の少ない状態が継続したため、発生量は平年よりやや少なくなった。	4月の高温によりハウスへの飛込が増えたが、発生確認後に防除が行われ、発生が抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した定期的な薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
冬春きゅうり (促成栽培)	コナジラミ類	平年：早 前年：早	平年：並 前年：多	平年より早い3月第3半旬に初発を確認したが、発生が確認された場合は一部であったため、発生量は平年並となった。	3～4月の高温によりハウスへの飛込が増えたが、発生確認後に防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	薬剤抵抗性を考慮した定期的な薬剤散布が実施されている。また、施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
冬春きゅうり (促成栽培)	ハモグリバエ類	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	平年より早い3月第3半旬に初発を確認し、5月に発生量が急増したため、発生量は平年より多くなった。	3～4月の高温によりハウスへの飛込が増え、収穫期後半に防除圧が低下した一部のほ場で発生が助長された。	施設の側窓や天窓に防虫ネットを張り侵入を防止している。
冬春きゅうり (促成栽培)	ハダニ類	平年：遅 前年：やや早	平年：並 前年：やや少	平年より遅い4月第6半旬に初発を確認したが、発生が確認された場合は一部であったため、発生量は平年並となった。	定期的な薬剤散布により、発生時期を栽培終了間際まで遅らせることができた。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春きゅうり (促成栽培)	アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春きゅうり (促成栽培)	食葉性チョウ目幼虫	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	2月第3半旬に初発を確認したが、発生は一時的であった。	一部ハウスで発生が確認されたが、発生確認後に防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	－
冬春きゅうり (促成栽培)	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
ブロッコリー	黒腐病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	細菌病共通の対策として薬剤散布が行われている。
ブロッコリー	べと病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	9～10月の高温少雨で発生が抑制された。	育苗時からの防除対策が始動されている。
ブロッコリー	軟腐病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	細菌病共通の対策として薬剤散布が行われている。
ブロッコリー	花蕾腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	細菌病共通の対策として薬剤散布が行われている。
ブロッコリー	菌核病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	10月以降の少雨により発生が抑制された。	－
ブロッコリー	黒斑細菌病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	細菌病共通の対策として薬剤散布が行われている。
ブロッコリー	黒すす病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	9～10月の高温少雨で発生が抑制された。	育苗時からの防除対策が始動されている。
ブロッコリー	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：多 前年：多	平年より早い9月第3半旬に初発を確認し、発生量は平年より多かった。	9月から12月は気温が高く、平年より長い期間で発生が見られた。	育苗～定植時のかん注処理剤が利用されている。他の病害虫との同時防除で対応している。
ブロッコリー	コナガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
ブロッコリー	ハスモンヨトウ	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：多	平年より遅い10月第1半旬に初発を確認し、発生量は平年より多かった。	定植後はしばらく定植時に処理した薬剤による防除効果が続いていたが、10月～11月の高温の影響で発生が助長された。	育苗～定植時のかん注処理剤が利用されている。フェロモントラップによる発生状況を参考に、薬剤散布が実施されている。
ブロッコリー	オオタバコガ	平年：遅 前年：遅	平年：多 前年：－	平年より遅い10月第4半旬に初発を確認したが、その後の発生は見られなかった。発生量は平年より多かった。	7月～10月に高温により発生が助長された。フェロモントラップの誘殺数も平年より多かった。	フェロモントラップによる発生状況を参考に薬剤散布が実施されている。7、8月に注意報を発表し注意喚起と適期防除を呼び掛けた。
ブロッコリー	ヨトウガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
ブロッコリー	ハイマダラノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
ブロッコリー	シロイチモジヨトウ	平年：やや遅 前年：遅	平年：－ 前年：多	平年よりやや遅い9月第3半旬に初発を確認し、発生量は前年より多かった。	7月～10月に高温により発生が助長された。フェロモントラップの誘殺数も平年より多かった。	フェロモントラップによる発生状況を参考に薬剤散布が実施されている。8、9月に注意報を発表し注意喚起と適期防除を呼び掛けた。
秋冬ねぎ	さび病	平年：早 前年：並	平年：やや多 前年：少	平年より早い5月第4半旬に初発を確認し、6月に急増したため、発生量は平年よりやや多くなった。その後の発生はなかったが、2月に一部ほ場で発生を確認した。	5月の多雨が発生を早めたが、7月以降は高温少雨が続いたため発生が抑制された。2月は暖冬の影響で一部ほ場で発生が確認された。	他の病害との同時防除で対応している。
秋冬ねぎ	黒斑病	平年：早 前年：並	平年：並 前年：やや多	平年より早い6月第3半旬に初発を確認し、発生量は平年並となった。	梅雨の影響で一時的に多発したが、その後の少雨により抑えられた。その後秋季の高温により発生が増加した。	他の病害との同時防除で対応している。
秋冬ねぎ	萎縮病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
秋冬ねぎ	べと病	平年：早 前年：遅	平年：並 前年：やや少	平年より早い6月第5半旬に初発を確認したが、その後は発生は確認されなかった。	梅雨の影響で一部地域で発生したが7月以降の少雨により発生が抑えられた。	他の病害との同時防除で対応している。
秋冬ねぎ	軟腐病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年より早い8月第1半旬に初発を確認した。その後発生量はやや多で推移した。	8月以降も気温条件は好適であったが、高温期に降水量が少なかったため、発生がやや抑制された。しかし、平年よりは多かった。	排水対策等の耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
秋冬ねぎ	小菌核腐敗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	9～10月の少雨により発生が抑制された。	－

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬ねぎ	白絹病	平年：遅 前年：並	平年：やや多 前年：並	平年より遅い8月第4半旬に初発を確認した。平年よりやや多い発生であったが、9月までの発生となった。	8月の高温多湿が発生を助長させた。	耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
秋冬ねぎ	黒腐菌核病	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：並	平年より早い11月第1半旬に初発を確認したが、その後は発生が確認されなかった。	暖冬により発生が助長されたが、その後収穫期を迎えたため発生は一時的なものとなった。	土壌消毒と併せ、耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
秋冬ねぎ	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
秋冬ねぎ	シロイチモジヨトウ	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：並	平年より早い7月第1半旬に初発を確認した。その後も継続して発生が確認されたため、発生量は平年より多かった。	6月～10月の高温により発生が助長され、12月まで発生が確認された。フェロモントラップ誘殺数も平年より多かった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。8、9月に注意報を発表し注意喚起と適期防除を呼び掛けた。
秋冬ねぎ	アブラムシ類	平年：早 前年：遅	平年：並 前年：少	平年より早い4月第6半旬に初発を確認したがその後は収まった。10、11月にも発生を確認したが、発生量は平年並であった。	3～4月の高温で発生が助長された。	他の害虫との同時防除で対応している。
秋冬ねぎ	ネギハモグリバエ	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：並	平年並の7月第3半旬に初発を確認し、その後も継続して発生が確認されたため、発生量は平年より多かった。	6月～10月の高温により発生が助長された。B系統の発生により被害が増加した。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
秋冬ねぎ	ネギアザミウマ	平年：早 前年：遅	平年：多 前年：並	平年より早い4月第6半旬に初発を確認し、その後も継続して発生が確認されたため、発生量は平年より多かった。	一年を通して高温で推移したため、発生が早く、発生量も多かった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
秋冬ねぎ	ネギコガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
さといも	汚斑病	平年：遅 前年：－	平年：やや多 前年：－	8月第1半旬から9月第3半旬まで発生が見られたが、収量に大きな影響は与えなかった。	8月から9月の高温少雨の影響により、葉の老化が早まり発生が助長された。	－
さといも	疫病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	7月の高温少雨により発生が抑制された。	県内主要産地での防除に対する意識が高く、適期防除が行われ、発生は抑制された。ドローンでの薬剤散布が行われるなど防除が徹底された。
さといも	アブラムシ類	平年：早 前年：並	平年：並 前年：多	平年より早い5月第3半旬に初発が確認され、8月第1半旬まで発生が見られた。	5月からの高温で発生が促進されたが、薬剤による防除や天敵等の影響により、発生量は抑えられた。	疫病防除のため、薬剤散布回数が増加した。それに伴い、殺虫剤を散布する機会も増加した。
さといも	ハダニ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	6月第6半旬に初発が確認されたが、その後発生は見られなかった。	6月第6半旬の高温少雨により発生は促進されたが、その後の7月第1半旬の降雨により発生は抑制された。	－
さといも	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春ほうれんそう	べと病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春ほうれんそう	立枯病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春ほうれんそう	アブラムシ類	平年：早 前年：－	平年：並 前年：－	平年より早い11月第3半旬に初発を確認したが、その後は確認されなかった。発生量は平年並となった。	9月～11月にかけて気温が高く発生が助長されたが、適期防除により発生は抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した防除が実施されている。
冬春ほうれんそう	アザミウマ類	平年：遅 前年：－	平年：多 前年：－	平年より遅い11月第3半旬に初発を確認し、その後の発生は確認されなかったが、発生量は平年より多かった。	9月～11月にかけて気温が高く発生が助長されたが、適期防除により発生は抑制された。	播種時の粒剤施用をはじめ薬剤抵抗性を考慮した防除が実施されている。
冬春ほうれんそう	ハスモンヨトウ	平年：遅 前年：－	平年：多 前年：－	平年より遅い11月第3半旬に初発を確認し、その後の発生は確認されなかったが、発生量は平年より多かった。	9月～11月にかけて気温が高く発生が助長されたが、適期防除により発生は抑制された。	フェロモントラップによる発生状況を参考に薬剤散布が実施されている。
冬春ほうれんそう	ケナガコナダニ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
冬春ほうれんそう	シロオビノメイガ	平年：遅 前年：遅	平年：－ 前年：多	平年より遅い11月第3半旬に初発を確認し、その後の発生は確認されなかったが、発生量は前年より多かった。	9月～11月にかけて気温が高く発生が助長されたが、適期防除により発生は抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した防除が実施されている。
いちご (育苗期)	灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (育苗期)	うどんこ病	平年：－ 前年：やや早	平年：並 前年：－	前年よりやや早い5月第6半旬に初発を確認したが、その後は確認されず発生量は平年並となった。	適切な肥培管理や適期防除が行われ、発生は一時的なものとなった。	－

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
いちご (育苗期)	炭そ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	雨よけ施設での育苗と併せ、灌水方法の工夫等、耕種的対策がとられている。
いちご (育苗期)	萎黄病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (育苗期)	輪斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (育苗期)	ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (育苗期)	アザミウマ類	平年：－ 前年：並	平年：－ 前年：－	前年並の5月第6半旬に初発を確認したが、その後の発生は確認されなかった。	適期防除が行われ、発生は抑制された。	－
いちご (育苗期)	アブラムシ類	平年：早 前年：並	平年：並 前年：並	平年より早い5月第2半旬に初発を確認したが、発生量は平年並となった。	3、4月の気温が高く、5月からの発生が見られたが、薬剤防除が行われ、発生は抑制された。	他の害虫との同時防除で対応している。
いちご (育苗期)	ハダニ類	平年：早 前年：やや早	平年：多 前年：並	平年より早い4月第6半旬に初発を確認し、その後も継続的な発生が確認され、発生量は平年より多かった。	6月から8月にかけての高温により発生が助長された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
いちご (育苗期)	ホコリダニ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (育苗期)	コナジラミ類	平年：－ 前年：遅	平年：並 前年：－	前年より遅い5月第6半旬に初発を確認したが、その後は確認されず、発生量は平年並となった。	適切な防除が行われ一次的な発生にとどまった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	灰色かび病	平年：遅 前年：遅	平年：やや多 前年：やや少	平年より遅い1月第6半旬に初発を確認し、その後も継続的な発生が確認され発生量は平年よりやや多かった。	2月～3月の降雨が多かったため発生が助長され、発生が長引いた。	耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	うどんこ病	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：並	平年より遅い2月第1半旬に初発を確認したが、その後はわずかな発生にとどまったため、発生量は平年よりやや少なかった。	育苗期の6～8月の高温が発生を抑制し、定植後の発生が抑えられた。適正な肥培管理や適期防除が行われたため発生量はやや少にとどまった。	耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	炭そ病	平年：－ 前年：やや早	平年：やや少 前年：－	前年よりやや早い10月第6半旬に初発を確認したが、その後の発生は見られず、発生量は平年よりやや少なかった。	7月～9月にかけて降雨が少なかったため、発生が抑えられた。早期抜き取りや適期防除が行われたため、発生は一時的なものとなった。	耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	萎黄病	平年：－ 前年：やや早	平年：やや少 前年：－	前年よりやや早い10月第6半旬に初発を確認したが、その後の発生は見られず、発生量は平年よりやや少なかった。	早期抜き取りや適期防除が行われたため、発生は一時的なものとなった。	耕種的防除や薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	輪斑病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (生育・収穫期)	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：－	平年並の10月第1半旬に初発を確認したが、その後の発生は確認されず、発生量は平年並となった。	一部ほ場で苗からの持ち込みによる発生が見られたが、その後防除され、発生は抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	アザミウマ類	平年：早 前年：遅	平年：並 前年：少	平年より早い11月第6半旬に初発を確認し、その後も継続的に発生が確認されたが、発生量は平年並となった。	9月～12月にかけて高温で推移したため、一部ほ場で発生が確認された。終盤になるにつれ発生が見られるほ場が増したが、発生量は平年並にとどまった。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。
いちご (生育・収穫期)	アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：やや多 前年：多	平年より早い10月第1半旬に初発を確認し、その後も継続的な発生が確認され発生量は平年よりやや多かった。	9月～2月まで気温が平年より高く推移したため、初発後も継続的に発生した。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布や、天敵の活用によるIPMが実施されている。
いちご (生育・収穫期)	ハダニ類	平年：やや早 前年：早	平年：少 前年：少	平年よりやや早い11月第1半旬に初発を確認し、その後も継続的に発生が確認されたが、発生量は平年より少なかった。	定植前の防除が徹底されたため、発生が少なかった。9月～2月にかけて気温が高かったが、天敵の活動も活発になり発生は抑制された。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布や、天敵の活用によるIPMが実施されている。
いちご (生育・収穫期)	ホコリダニ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	発生は確認されなかった。	－	－
いちご (生育・収穫期)	コナジラミ類	平年：遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	平年より遅い11月第3半旬に初発を確認し、その後の発生も見られたが発生量は平年よりやや少なかった。	定植前の防除が徹底され、発生後も適期防除が行われたため、発生が抑えられた。	薬剤抵抗性を考慮した薬剤散布が実施されている。

イ 令和5年度 病害虫発生程度別及び防除面積

作物名 (作付面積)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)	
		甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
早期水稲 13,500ha (5月中旬までの移植)	苗立枯病					-		
	苗いもち					-		
	葉いもち		1	60	1150	1211	6750	6750
	穂いもち				69	69	100	100
	紋枯病	1	23	352	2517	2893	10800	10800
	白葉枯病					-		
	ばか苗病					-	6750	6750
	イネシソガレセンチュウ				9	9		
	イネシソガレセンチュウ(種子消毒)					-	10800	10800
	もみ枯細菌病				9	9		
	もみ枯細菌病(種子消毒)					-	10800	10800
	ごま葉枯病				9	9		
	小粒菌核病					-		
	黄化萎縮病					-		
	縮葉枯病	2	49	534	2896	3481	6750	6750
	黒すじ萎縮病					-		
	萎縮病					-		
	黄萎病					-		
	稲こうじ病					-	10800	10800
	褐色菌核病					-		
	赤色菌核病					-		
	葉しょう褐変病					-		
	褐色葉枯病					-		
	苗立枯細菌病					-		
	ニカメイガ		1	44	944	989	6750	6750
	セジロウンカ			1	262	263	6750	6750
	トビイロウンカ					-	6750	6750
	ヒメビウンカ	1020	3986	5306	2277	12589	6750	6750
	ツマグロヨコバイ	218	794	2073	3684	6769	6750	6750
	イネハモグリバエ					-		
	イネミギワバエ					-		
	イネキモグリバエ					-		
	イネドロオウムシ				156	156	1300	1300
イネゾウムシ					-			
イネクロカメムシ					-			
斑点米カメムシ類	45	262	1029	2812	4148	5400	5400	
イチモンジセセリ					-			
フタオビコヤガ			1	262	263	1300	1300	
イネヨトウ					-			
アワヨトウ					-			
コブノメイガ					-			
イネミズゾウムシ			6	595	601	1300	1300	
スクミリンゴガイ					-	30	30	
普通期水稲 16,500ha (5月下旬以降の移植)	苗立枯病					-		
	苗いもち					-		
	葉いもち				164	164	13200	13200
	穂いもち		0	33	1229	1262	13200	13200
	紋枯病	34	291	1411	4135	5871	13200	13200
	白葉枯病					-		
	ばか苗病				32	32	6600	6600
	イネシソガレセンチュウ					-		
	イネシソガレセンチュウ(種子消毒)					-	13200	13200
	もみ枯細菌病		0	33	1229	1262		
	もみ枯細菌病(種子消毒)					-	13200	13200
	ごま葉枯病					-		
	小粒菌核病					-		
	黄化萎縮病					-		
	縮葉枯病		0	9	609	618	13200	13200
	黒すじ萎縮病					-		
	萎縮病					-		
	黄萎病					-		
稲こうじ病					-	13200	13200	

作物名 (作付面積)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)	
		甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
普通期水稻 (5月下旬以降の 移植)	褐色菌核病					-		
	赤色菌核病					-		
	葉しょう褐変病					-		
	褐色葉枯病					-		
	苗立枯細菌病					-		
	ニカメイガ				32	32	13200	13200
	セジロウンカ	3	74	761	3818	4656	13200	13200
	トビイロウンカ					-	13200	13200
	ヒメビロウンカ	5372	4985	3637	1440	15434	13200	13200
	ツマグロヨコバイ	117	485	1508	3471	5581	13200	13200
	イネハモグリバエ					-		
	イネミギワバエ					-		
	イネキモグリバエ					-		
	イネドロオイムシ					-	8250	8250
	イネゾウムシ					-		
	イネクロカメムシ					-		
	斑点米カメムシ類	964	1535	2611	3641	8751	8250	8250
	イチモンジセセリ				32	32	8250	8250
	フタオビコヤガ					-	8250	8250
	イネヨトウ					-		
アワヨトウ					-			
コブノメイガ					-	8250	8250	
イネミズゾウムシ					-			
スクミリンゴガイ					-	30	30	
麦 6,270ha	黒さび病					-		
	赤さび病		1	38	720	759	1250	1250
	黄さび病					-		
	小ささび病					-		
	うどんこ病	137	314	691	1265	2407	1880	1880
	赤かび病				1	1	1880	1880
	雪腐病類					-		
	黒穂病類					-		
	黒節病					-		
	麦類縮萎縮病					-		
	小麦縮萎縮病					-		
	大麦縮萎縮病					-		
	雲形病					-		
	斑葉病					-		
	株腐病					-		
	立枯病					-		
	アブラムシ類				68	68	1250	1250
	ムギアカタマバエ					-		
	ハモグリバエ類					-		
	ムギダニ				1	1	1250	1250
かんしょ 365ha	かいよう病					-		
	つる割病					-	50	50
	立枯病					-	50	50
	イモキバガ					-	300	300
	ナカジロシタバ	6	81	190	82	359	300	300
	ハスモンヨトウ					-	300	300
	シロイチモジヨトウ					-		
	ヨツモンカメノコハムシ					-		
コガネムシ類					-	150	200	
大豆 657ha	紫斑病				1	1	330	330
	さび病					-		
	菌核病					-		
	立枯性病害				1	1	330	330
	炭そ病					-		
	黒とう病					-		
	べと病	10	42	112	192	356	330	330
	葉焼病	1	8	44	148	201	330	330
モザイク病					-			

作物名 (作付面積)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)	
		甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
大豆	萎縮病					-		
	ウイルス病(わい化病除く)				1	1		
	わい化病					-		
	アブラムシ類					-		
	タネバエ					-		
	コガネムシ類				1	1	330	330
	ハスモンヨトウ		0	8	97	105	330	660
	食葉性チョウ目幼虫	23	148	278	150	599	330	660
	ハダニ類					-		
	ダイズサヤタマバエ				1	1	330	330
	マメヒメサヤムシガ					-		
	マメシンクイガ	19	37	75	127	258	330	330
	シロイチモジマダラメイガ		0	5	107	112	330	330
	吸葉性カメムシ類	32	180	279	117	608	330	660
	ウコンノメイガ					-		
フタスジヒメハムシ					-			
ヒメサヤムシ類	2	10	35	94	141	330	330	
なし 375ha	黒斑病					-		
	黒星病				0	-	370	370
	赤星病			0	22	22	370	740
	うどんこ病	43	55	78	88	264	370	740
	輪紋病					-		
	ナシヒメシンクイ				0	-	370	1110
	モモシンクイガ					-		
	ナシマダラメイガ					-		
	ハマキムシ類					-		
	ハダニ類	29	43	69	89	230	370	1110
	カメムシ類					-	370	1850
	カイガラムシ類				0	-	370	370
	アブラムシ類	4	13	36	79	132	370	370
	ニセナシサビダニ		1	7	49	57	370	370
	吸ガ類					-		
ナシチビガ					-			
茶 783ha	炭疽病		2	25	173	200	760	1520
	もち病					-		
	網もち病					-		
	輪斑病					-	760	1520
	チャノコカクモンハマキ		0	5	66	71	760	2280
	チャハマキ	3	18	75	201	297	760	2280
	チャノホソガ					-	760	2280
	チャノミドリヒメヨコバイ	0	5	47	219	271	760	2280
	カンザワハダニ	42	78	139	195	454	760	2280
	チャノキイロアザミウマ	0	5	47	219	271	760	2280
	ツマグロアオカスミカメ					-	760	2280
	クワシロカイガラムシ		0	5	66	71	760	1520
	ヨモギエダシヤク					-	760	760
	チャトゲコナジラミ		0	52	513	565	760	1520
	冬春トマト 118ha	疫病					-	
灰色かび病					2	2	110	330
モザイク病						-		
葉かび病						-		
青枯病						-		
萎ちょう病						-		
うどんこ病		2	5	11	20	38	110	330
黄化葉巻病					0	-	110	330
アザミウマ類						-	110	330
オオタバコガ						-	110	110
コナジラミ類			0	4	17	21	110	330
ハモグリバエ類						-		
アブラムシ類						-	110	330
トマトサビダニ						-		
ハスモンヨトウ						-	110	110

作物名 (作付面積)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)	
		甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
夏秋なす 242ha	うどんこ病	0	2	15	58	75	200	600
	灰色かび病					-		
	褐紋病		0	5	31	36	200	200
	褐色腐敗病					-	200	600
	半身萎ちよう病	3	8	20	43	74	200	600
	青枯病					-	200	200
	アザミウマ類	46	54	62	49	211	200	800
	コナジラミ類			0	44	44	200	600
	オオタバコガ	3	15	50	87	155	200	600
	ハモグリバエ類					-		
	アブラムシ類	0	5	25	72	102	200	600
	ハダニ類	30	63	80	52	225	200	600
ハスモンヨトウ					-	200	600	
ホコリダニ類				3	3	200	600	
夏秋きゅうり 335ha	べと病				0	-	300	300
	炭そ病					-		
	疫病					-		
	うどんこ病		0	2	31	33	300	300
	斑点細菌病					-		
	モザイク病					-	300	300
	灰色かび病					-	300	300
	褐斑病			0	15	15	300	300
	菌核病					-	300	300
	黄化えそ病	1	6	21	57	85	300	600
	退緑黄化病	23	29	47	66	165	300	600
	アザミウマ類	1	7	26	68	102	300	600
	ハダニ類					-	300	300
	アブラムシ類					-		
	コナジラミ類		1	11	77	89	300	600
	ハモグリバエ類			0	20	20	300	300
ワタヘリクロノメイガ					-	300	300	
オオタバコガ					-			
ハスモンヨトウ					-	300	300	
冬春きゅうり 257ha	べと病		0	2	33	35	250	750
	炭疽病					-		
	疫病					-		
	うどんこ病	3	9	25	54	91	250	750
	斑点細菌病					-		
	モザイク病					-		
	灰色かび病					-	250	750
	褐斑病					-	250	750
	菌核病					-	250	750
	黄化えそ病				0	-		
	退緑黄化病			0	11	11		
	アザミウマ類				7	7	250	750
	ハダニ類				7	7	250	750
	アブラムシ類					-		
	コナジラミ類				7	7	250	750
	ハモグリバエ類		0	3	24	27	250	750
ワタヘリクロノメイガ					-			
オオタバコガ					-			
ハスモンヨトウ					-			

作物名 (作付面積)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					防除面積(ha)	
		甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
ブロッコリー 1,202ha	黒腐病					-		
	べと病					-		
	アブラムシ類				60	60	1000	1000
	コナガ					-	1000	1000
	ハスモンヨトウ	13	37	99	216	365	1000	1000
秋冬ねぎ 1,777ha	さび病	4	26	110	333	473	980	2940
	黒斑病			9	516	525	980	2940
	萎縮病					-		
	べと病		0	3	100	103	980	2940
	軟腐病		0	7	186	193	980	980
	白絹病	0	3	37	255	295	980	980
	シロイチモジヨトウ	582	1130	65	0	1777	980	1960
	ハスモンヨトウ					-	980	1960
	アブラムシ類				7	7	980	980
	ネギハモグリバエ	265	199	255	307	1026	980	2940
	ネギアザミウマ	582	1130	65	0	1777	980	2940
ネギコガ					-			
ざといも 762ha	汚斑病	32	63	120	183	398	0	0
	モザイク病					-		
	疫病					-	150	300
	アブラムシ類				419	419	300	300
	ハダニ類					-		
ほうれんそう 1,890ha	ハスモンヨトウ					-	300	300
	べと病					-		
	モザイク病					-		
	シロイチモジヨトウ					-		
	アブラムシ類				27	27	200	200
いちご 100ha	ヨトウガ					-		
	シロオビノメイガ	0	4	38	247	289	200	200
	灰色かび病			0	8	8	100	200
	うどんこ病				2	2	100	200
	モザイク病					-		
	炭疽病					-	100	200
	萎黄病					-	100	100
	アブラムシ類	0	1	6	19	26	100	200
	アザミウマ類	13	11	15	19	58	100	300
コナジラミ類			0	8	8	100	100	
ハダニ類		0	2	17	19	100	300	
ハスモンヨトウ	0	1	4	19	24	100	100	



#### (4) 令和5年度の病害虫発生予察情報等の発信

##### ア 病害虫発生予察警報、注意報及び特殊報等発表状況

###### (ア) 警報

なし

###### (イ) 注意報

発表年月日	内 容
令和5年7月11日	野菜類・花き類、オオタバコガ
令和5年7月31日	イネ、斑点米カメムシ類
令和5年8月15日	野菜類・花き類・ダイズ、オオタバコガ
令和5年8月15日	ネギ・ブロッコリー、シロイチモジヨトウ
令和5年9月25日	ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ

###### (ウ) 特殊報

なし

###### (エ) 発生予報

予報月	発表年月日	予報月	発表年月日
5月	令和5年4月27日	11月	令和5年10月25日
6月	令和5年5月26日	12月	令和5年11月28日
7月	令和5年6月28日	1月	令和5年12月22日
8月	令和5年7月27日	2月	令和6年1月26日
9月	令和5年8月25日	3月	令和6年2月27日
10月	令和5年9月26日	4月	令和6年3月22日

(オ) 注意を促すための情報

a 病害虫防除情報

防除時期が限定される病害虫や予報に合わせ、特に注意を促す必要がある病害虫について病害虫防除情報としてホームページ上で発信した。

発表年月日	作物別	内 容
令和5年5月15日	野菜	ナスのオオタバコガについて
令和5年5月26日	普通作物	稲（早期栽培）のニカメイガ（ニカメイチュウ）について
令和5年7月5日	普通作物	イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）について

b 調査結果等

病害虫の適期防除を促すため調査結果をホームページ上で発信した。

発表時期	内 容
令和5年4月～ 令和6年3月	各種フェロモントラップ等データ
令和5年6月6日	麦類ほ場内のヒメトビウンカの生息密度調査結果
令和5年6～8月	いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況
令和5年6～9月	気象予測データによるウンカ類飛来予測状況 （トビイロウンカ、セジロウンカ）
令和5年7月6日	イネツトムシ発育予測
令和5年7月6日	フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測
令和5年7月25日	いもち病発生状況調査結果
令和5年7月25日	水稻の斑点米カメムシ類の畦畔・雑草地発生調査結果
令和6年1月15日	ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果
令和6年3月15日	果樹カメムシ類の越冬密度調査結果

イ 発生予察情報（発生予報、注意報、特殊報等）、病害虫発生現況報告等の外部への提供

国（植物防疫課）、関東農政局及び日本植物防疫協会に、発生予察情報（発生予報、注意報等）、病害虫発生現況報告等を提供した。

植物防疫に関するデータベースサービスであるJPP-NET（運用主体：日本植物防疫協会）によって、病害虫防除に関する情報交換を国及び他県等と行い、発生予察及び防除指導に活用した。

## ウ 発生予察ツールを用いた発生消長予測情報の提供

県で開発したツールを用いて、気象台の気温観測データと害虫種ごとの発育パラメータから今後の害虫の発生消長を予測し、フェロモントラップデータとともにホームページを通じて情報提供した。

- ・ナシヒメシンクイ 提供日：6月22日、7月6日、7月20日
- ・ハスモンヨトウ 提供日：8月21日、9月5日、9月21日、10月5日

これらの他、ヒメトビウンカの越冬世代幼虫を対象としたイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査において、供試虫採集・ウイルス検定実施時期の決定にも用いた。